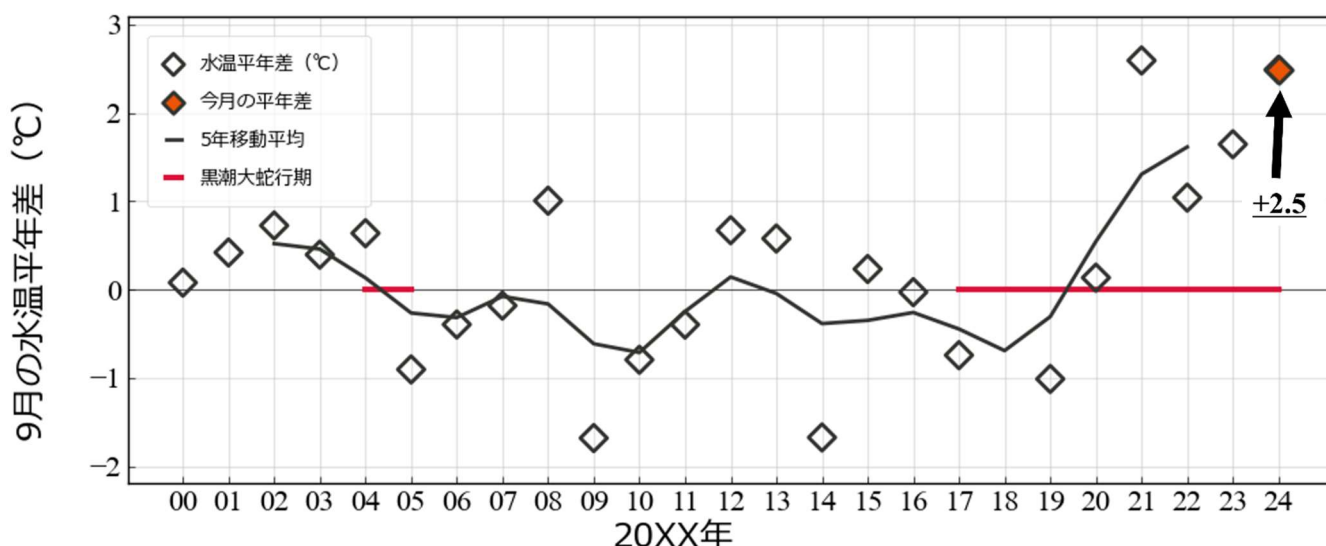


## 【水温の変動】

9月5、6日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

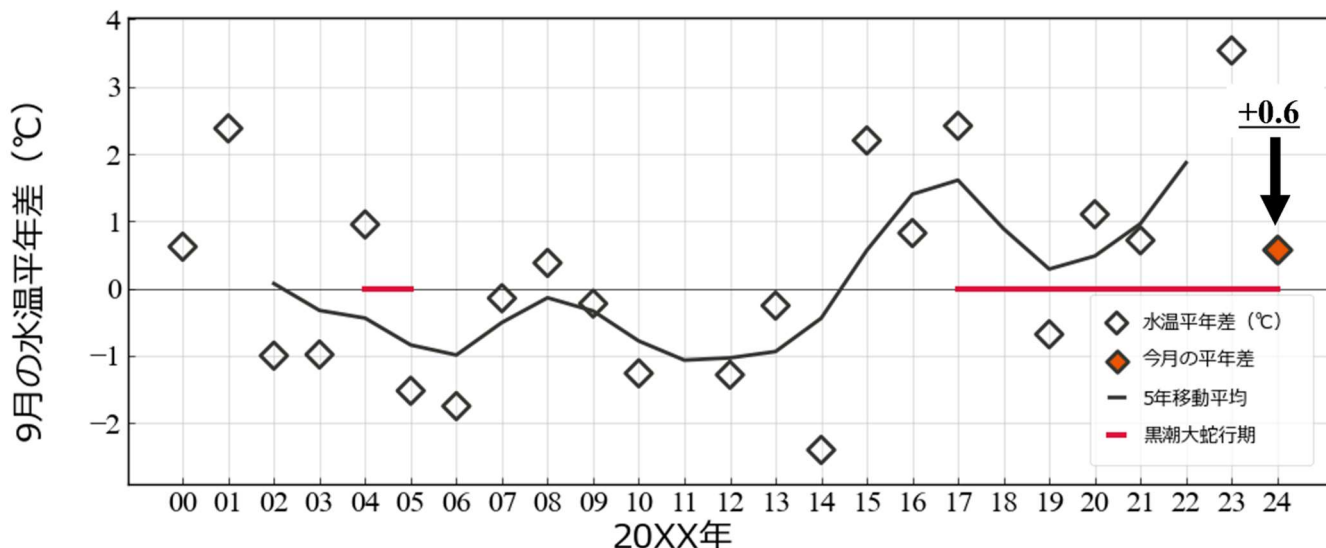
湾口部の海面水温は、平年差+2.5℃で極めて高めとなっています。沖合域水深200mの水温は、平年差+0.6℃でやや高めとなっていました。9月5日の人工衛星画像によると、黒潮は大蛇行流路を継続し、御前崎沖北緯30度付近から石廊崎沖北緯34度へ向かって北上するA型流路となっています。黒潮の北上部は、先週の流路と比べて東へ移動しており、渥美外海への黒潮系暖水の波及がみられます。また、伊勢湾湾口から出た内湾系水は、志摩半島～熊野灘に沿って反時計回りに流れていると考えられます

### 湾口部 0m (A1) における9月の水温平年差の変動



※水温平年差は過去30年平均値との差

### 沖合域水深200m (A4, A12, A19の平均) における9月の水温平年差の変動



※水温平年差は過去50年平均値との差

## 【渥美外海の海況】

海面水温と表層塩分の分布によると、相対的に低水温・低塩分の水塊が志摩半島付近に分布していることから、伊勢湾湾口の内湾系水の一部が志摩半島に沿って張り出していると考えられます。水温の鉛直断面図によると、沿岸域において水深 100m よりも浅い深度では等温線が沖へ向けて高くなっており、東向きに流れていると考えられます。一方で、水深 200m 以深では等温線が沖へ向けて低くなっており、西向きに流れていると考えられます。また、沿岸部では湧昇が確認されました。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

